

臨床研究情報

【研究課題名】

気管支喘息急性増悪入院患者における吸入手技判定方法統一の有効性と
吸入手技に影響する患者家族の環境要因について

【研究機関】

大阪赤十字病院

【研究責任者】

薬剤部 薬剤師 小松 絵美

【研究の目的】

気管支喘息の発作治療では、気管支を広げる薬を吸入します。当院小児科病棟では、液状の薬を霧状にして気管支に届ける「ネブライザー」と呼ばれる機械を使用していました。一方、コロナウイルスに感染した患者様がネブライザーを使用した場合に、感染のリスクが高くなる可能性があるため、他の吸入器具を使用することが望ましいとの注意喚起が「日本小児アレルギー学会」より発表されました。当院小児科病棟では、2020年5月より、気管支を広げる薬を吸入していただく場合は、補助器具を用いてスプレータイプの薬を吸入する方法に変更しました。補助器具を用いたスプレータイプの吸入は、ネブライザーを使用する吸入と同じく、小児に推奨されている方法です。しかしながら、当院小児科病棟では、変更後に2割ほどの患者様が正しく吸入ができないと判断され、ネブライザーへの変更や吸入の中止をしました。判定の基準がスタッフにより異なるため、判定する方法を見直すことで、より多くの患者様が現在の方法で吸入を継続できると考えました。

また、入院では自宅と比べ、環境の違いによりうまく吸入が行えない可能性があると考えました。今回、患者様の体調や機嫌の悪さ、付き添いをされるご家族様の負担など、正しい吸入方法の習得に影響を与える要因を把握するために退

院後のご家族様にアンケート調査を行いました。

【研究の方法】

・対象

2021年9月から2022年12月に当院小児科に喘息発作治療のため入院した患者様とご家族

・方法

① 吸入手技判定方法の統一

気管支を広げる吸入薬を開始時に吸入手技を確認するチェック表を交付し、ご家族様に記入していただく。翌日にチェック表を用いて、吸入を正しく行うことができるか薬剤師が判定する。

② 吸入手技の影響する他の環境要因

退院後、小児科外来受診時にご家族様にアンケート調査を実施する。

・利用する情報

過去の診療記録を参照してデータ（年齢、性別、喘息の発作強度、処方歴）を取集します。吸入手技チェック表（吸入準備、患者様の受け入れ、吸入時の姿勢、吸入補助具のマスクの密着、吸入時の呼吸回数、吸入補助具マスクの密着、吸入時の呼吸回数、吸入補助具の弁の動き）とアンケート（吸入時の患者様の機嫌とご家族様の心の余裕、入院と自宅の比較）の回答結果を取集します。

【個人情報の取り扱い】

この研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、あなた自身のプライバシーに関する秘密はすべて厳重に守られます。データは匿名化を行いますので、名前などの個人を特定できる情報が報告に当たって使用されることは一切ありません。

【外部への試料・情報の提供方法】

外部への提供は行いません。

【問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。また、情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。ただ既にデータの解析が行われた場合や結果が公表された場合など、削除できない場合もあります。

この研究は国の定めた指針に従い、当院の医療倫理審査委員会の審査・承認を得て実施しています。

大阪赤十字病院薬剤部

〒543-8555大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

TEL 06-6774-5111 FAX 06-6774-5131

倫理審査委員会申請日 2023年 3月 17日